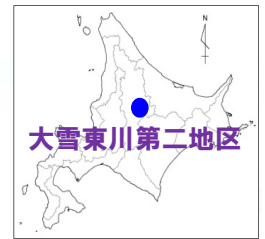


国 営 緊 急 農 地 再 編 整 備 事 業

たい せつ ひ が し か わ だ い に

大 雪 東 川 第 二 地 区



調査地区の概要

- 関係市町村：北海道 上川郡 東川町
- 受益面積：1,639ha
- 受益戸数：301戸
- 主要作物：水稲、大豆、そば、トマト、ピーマン、
ねぎ、ブロッコリー、スイートコーン、だいこん、
にんじん、かぼちゃ

東川米
地域団体商標「東川米」登録
北海道米認定第1号
ブランド米「東川米」



地域農業の現状と課題

本地区は、北海道中央部、大雪山国立公園の麓にある東川町に位置し、町内を東西に流れる1級河川石狩川水系の忠別川と倉沼川流域に広がる水田地帯である。

地域の農業は、水稲を主体としながら、露地野菜や施設野菜を組込んだ複合経営が展開されており、近年は安心・安全で高品質な農産物の生産に力を入れている。

水稲については、独自の認証基準（農薬使用基準、防除基準など）をクリアした「東川米」ブランドとして販売しており、特許庁が定める地域団体商標にも登録されている。また、トマトやブロッコリーなど野菜類の栽培にあってはGAPを導入し、品質管理の徹底により生食でも安全に食べられる「ひがしかわサラダ」を販売している。これらの「東川米」、「ひがしかわサラダ」は首都圏など全国各地で販売されており、さらなる販路の拡大を目指している。

しかし、地区内の農地は、小区画、排水不良等のほ場条件に加え、離農跡地の継承による経営耕地の分散化が進んでいることから、農作業効率が悪く、農業生産性の向上を図るうえで支障を来しており、現在の生産基盤のままでは、将来的に担い手への農地流動化が困難となり、地域では農業者の高齢化、後継者の不足等から耕作放棄地が増加するおそれがある。



30～50aの小区画ほ場が地区内の9割を占め、機械作業の効率が悪い



排水不良なほ場では機械がぬかるみやすく、作業効率が悪い

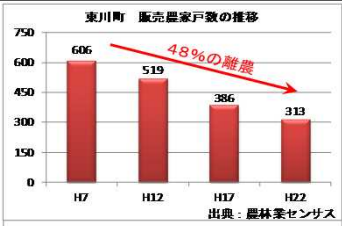


地区内では耕作放棄地が発生

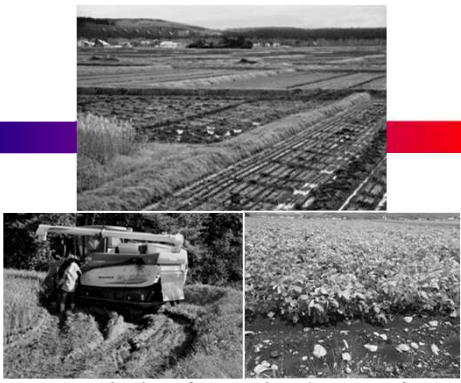
元気で魅力ある東川農業を目指して

～水田フル活用による地域ブランドの強化と地域社会の活性化～

農業の現状と将来予測



農家戸数等が半減しており、地域農業の担い手不足が懸念



小区画・排水不良・石礫過多のほ場条件では作業効率が悪く、生産性も低い



現在の生産基盤のままでは、担い手への継承も困難となり、耕作放棄地が増加するおそれがある

このため、優良農地の確保に向けて・・・

国営緊急農地再編整備事業による生産基盤により、生産性の向上と水田フル活用を展開

『ひがしかわサラダ』の生産拡大に必要な労働力は「東川町アグリサポートセンター(仮称)」に登録する地域住民を雇用することで、**農業所得の向上**と併せて地域**社会の活性化**に寄与。



地域農業の担い手・リーダー農業者が運営する農地集積・集約化や請負作業を可能とする「**地域共同利用(作業)組織**」、「**地域共同生産組織(法人)**」を育成し、**農作業の共同化による低コスト生産**を目指す。



地域住民を雇用し、ひがしかわサラダ(写真はブロッコリー)を収穫

生産基盤の整備と併せて、これら取組みを推進することで**高品質・安定生産**による**地域ブランド強化**



ほ場の大区画化と併せて共同作業を行うことにより、「東川米」を低コスト安定生産が可能



「ひがしかわサラダ」、「東川米」の全国販売を拡大(左は神奈川県、右は新潟県での販売の様子)



高付加価値化の取組拡大

東川町産の完熟トマト(桃太郎)100% トマトジュース「北の太陽」